

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市青少年問題協議会
- 2 開催日時 平成28年2月2日(火) 午後3時00分から午後4時30分まで
- 3 開催場所 ケーズデンキスタジアム水戸 多目的室C
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員
田山喜子, 大関茂, 菊池徹, 岡田澄子, 成願強, 岩下智子, 楢崎ひろ子, 立川力,
堀田望, 永盛久貴, 水嶋陽子, 中田潔, 樽川千城, 後藤幸夫, 田邊一男, 武士敬一,
木本信太郎, 高倉富士男
 - (2) 執行機関
高橋靖, 塚原広孔, 上田航也, 鈴木雅人
 - (3) その他
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 水戸市青少年・若者育成基本計画（第2次）（素案）について（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 0人
- 8 会議資料の名称
 - (1) 水戸市青少年・若者育成基本計画（第2次）（素案）

9 発言の内容

【執行機関】（開会の挨拶 委任状の交付）

【市長】

皆さんこんにちは。皆様には御多用中にもかかわらず御参加いただき、誠にありがとうございます。また、皆様方には青少年問題、青少年の健全育成に係る行政に対しまして、多大なる御支援を頂いておりますことを心から御礼と感謝を申し上げます。

私が言うまでもなく、青少年を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、地域に目を移しますと、コミュニティが希薄化しており、核家族化であったり、高齢化が進んでいたり、地域においてもいろいろな問題・課題を抱えています。

学校ばかりではなく、行政や地域、家庭がしっかり連携を取れるような仕組みづくりを、もっともっと考えていかなければならないと思っております。

少子化の時代で一人一人に頑張っていただかなくてはならないところに、社会から離脱してしまう若者がいないように、私たち大人の責任として、水戸の環境づくりをしていかなければならないと思っております。

そういった中で、皆様にお諮りいたします水戸市青少年・若者育成基本計画（第2次）ということで、素案を策定させていただきました。いろいろと子どもや若者に対する環境づくりについて、あるいは留意する点について盛り込ませていただいたところであり、特に今まで青少年の枠組みを18歳以下ということで施策を進めてまいりましたが、最近引きこもり等へも行政として目を向けていかなければならない、新たな責任と役割が出てまいりました。

学校を卒業すると、そこで誰とも接触をしなくなってしまう。唯一親と接触というのはあるかもしれないのですけれど、公的機関と接触する機会というものはなくなってしまう。そうすると親しかいないのだけれども、親もいろいろと事情があり、なかなか接触ができない。そういった部分において、私たち行政として何らかの目を向けることができのだろうか。若者が戦力として働いていただかないと、将来の高齢化社会は乗り切れないわけでありますから、全てが戦力となって社会の一員としてリードしていただく、社会を支えていただく、そんなことを、決して18歳以下に限らず、若者という概念で行政として見守る、解決をしていく、そういう環境づくりのお手伝いできないか、ということで、今回は青少年・若者育成基本計画に、併せて織り込ませていただきました。

具体的にやれることを徐々にやっていかなければならないという認識の下に、織り込ませていただきましたので、皆様に御精査いただければと思います。

いずれにしても、これから皆様に御意見を頂き、またそういった御意見を反映させていきながら、素案に付け加えたり、削除したり、パブリックコメントにもかけさせていただいて、最終的に計画として作り上げていきたい。その第一段階として皆様に御意見を頂く大事な時間であり、皆様に御時間を頂き、忌憚ない御意見を頂きたいと思っておりますので、御指導くださいますようによろしくお願い申し上げます、私の方からの挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【執行機関】（委員自己紹介）

【会長】

それでは議事に入りますが、水戸市青少年・若者育成基本計画（第2次）（素案）に

ついて、説明願います。

【執行機関】（資料に基づき説明）

【会 長】

ただ今説明が終わりました。何か、御意見、御質問があれば伺いたいと思います。

【___委員】

10ページで、少年自然の家の利用状況は学校数で記載されているが、25ページの目標指標は、市内外を含めた利用人数の増加を挙げている。水戸市の施設なので、水戸市内の青少年の利用を上げるという目標にできないか。

また、少年自然の家を利用しにくいという意見を聞いているので、より利用しやすいよう整理してはどうか。

【執行機関】

10ページは、自然体験の減少という観点から特に水戸市内の学校数を挙げ、24ページは、第6次総合計画の中での全体的な目標として捉えている。

少年自然の家については、今年度と来年度、施設の建替えを行っており、施設の利用については、まだ全校実施に至っていないのが課題のため、青少年・若者育成基本計画とは別途、新たな利用計画を作成している段階である。

【会 長】

水戸市民の利用を、どこかに表現として入れてはどうか。

水戸市の学校は市内の施設を利用するようにしているが、少年自然の家は老朽化しており使いにくいという点が課題だった。

現在、食堂棟や冷暖房設備を改修している。改修後は、基本は水戸市の小中学生の利用だが、市外のスポーツ少年団の合宿等、できればより多くの方に来てもらいたいと考えており、利用プログラムを策定しているところである。

【___委員】

対象とする青少年・若者の範囲が広い。実際に青少年相談員等が対応している年齢層は狭いので、何とか対応できている。更に広がった場合どうするのかを検討するためのデータとして、就学児童の貧困率、実際は就労しているであろう年代の就労状況を記載してはどうか。

【執行機関】

就労状況、就業率については、持ち帰って担当課に確認する。

「若者」の概念が新しく追加されたもので、それまで本市は「青少年」という枠組みで進めてきた経緯があり、「困難」の概念もまた新しく追加されたもので、数値的な部分がそろってこない。したがって概念的な計画にはなってしまう。いろいろ検討しながら進める必要があると考えている。

【___委員】

少年自然の家の運営委員もしている。我々のニーズを取り入れてもらい、エアコン等

の改修が進んでいるが、キャンプ場の形があまりよくない。今回の計画では自然体験の減少が見られ、キャンプをしなくなったというが、対応する計画があれば教えていただきたい。

【執行機関】

ハード面については、ほぼ全面的に改装となり、平成29年4月オープンに向けて工事が始まっている。飯ごう場の一部は建替えを計画しているが、グラウンド、キャンプ場は基本的には今までのものを継続していく予定であり、具体的にここを整備するという段階ではなく、どうすれば使いやすくなるかはこれから検討していく。

【会 長】

キャンプ場は既にあるのだから、キャンプ体験、農業体験などとパッケージ化して利用計画を練っていかないと価値が上がっていかないと思う。

【___委員】

一般の方々がキャンプをしようとする、ツールがない。テントがある、道具がある、道路が整備されている等、手軽に使える施設にしたい。

【会 長】

利用計画の中で、備品類について留意していく。

【___委員】

国や県の施策と整合性というが、どの辺りの計画に合わせたのか。

【執行機関】

国や県も、自然体験が少なくなっていることと、それに伴い、子どもの頃の自然体験が大人になってからの規範意識に影響するというデータも示されております。

国の子ども・若者ビジョン、茨城県の茨城青少年プランにおいても、生きる力の育成については触れられております。

本市につきましては、少年自然の家をどう使って子どもたちの体験活動を増やすのか、また、高速道路のインターチェンジから近いという立地を踏まえ、魅力の発信にも最大限のポイントになる施設と考え、国等の計画よりは少年自然の家にふれた計画となっております。

【___委員】

計画の「目指す姿」は、どのようにして「未来の水戸をリードし社会に躍動する」としたのか。

また、全体として見たときに、幅の広い年代層が対象となっており、ライフステージごとの視点が必要ではないか。

【執行機関】

計画の「目指す姿」については、「自信を持って社会に躍動する青少年・若者の育成」という案もあったが、内部で検討する中で「未来の水戸をリードし社会に躍動する青少年・若者の育成」とした。

【会 長】

委員御指摘のとおり、いろいろな施策が分類はされているが、世代ごとで分類されていない。この視点は、計画はまだ素案の段階なので、盛り込んでいくか検討していくこととします。

【___委員】

行事を企画しても、参加者が集まらない。これからますます少子高齢化が進む中で、若者の参加が必要になってくる。実際就業しているべき年代の方が、どれくらい就業せず家庭の中にいるのか、分かるとよいと思う。

【___委員】

マスコミでは就学する前の年代の貧困率や、卒業しているはずの年代の就業率を報道している。国勢調査は守秘義務があり、それ以外で何らかの根拠があると思う。

【会 長】

データ的なことについてはこれから把握し、そのデータに基づきどういう対策ができるか、施策の展開に利用できるようにしていく。

【___委員】

30ページの地域リーダーの育成について、施策には賛成である。

講座修了者に対して、認定書等を発行してはどうか。

リーダーにはある程度基礎知識が求められ、どこかの段階で教育を受け、人に求められることでリーダーになっていくと思うので、小中学生のうちから教育を受けさせれば、必ずリーダーとして育っていくと思う。

【執行機関】

これまでジュニアリーダーの養成講座を開催し、市子ども会育成連合会とも相談したが、参加者がなかなか集まらなかったという経緯がある。

また、青少年育成推進会議と、中学生交流会や青少年サミットといった意見を述べる機会を設けているが、育っていった青少年が活動できる土壌が弱いという課題もあり、そちらも同時に対応していかなければならないと認識している。

文言等は検討させていただきたいと思います。

【___委員】

自分たちの団体の活動の他にも、スポーツ少年団など、様々な活動があり、子どもの取り合いになっているように感じる。各団体が集まり、子どもたちをみんなで守っている場があったらと思う。

子どもが子ども会に入りたいと思っても、親が役員をやりたいとなくて抜けてしまうケースがあり、地域のお祭りなどに関わり、地域の中で育っていく途中でそれが途切れてしまう。子どもの頃お兄さんお姉さんに面倒を見てもらい、自分も高学年になったらそういうリーダーになりたいと思っても、それを経験しないまま大人になってしまう。

【___委員】

小学校5年生くらいまでは参加できる子が多いが、それ以上になると、部活や勉強、他の地域活動との取り合い。本当に必要な時期に活動できない場合が多い。例えば、3週間は部活をして、今週は部活なしなどのルールを設けてもらえると、もう少し活動できる子どもたちが増えると思います。

【___委員】

子どもたちが加入している団体が多様化している。それらをどうやってつないでいくかが大事。その中で、どうやって子どもを育成していくかという視点で取り組まないといけない時代が来たのかと思う。

【___委員】

学区で花壇の整備を子どもたちと始めたが、最近は大人だけでやっている。青少年育成推進会議で行った行事についても、参加者が集まらなかった。

子どもたちはそれなりに動けると思うが、それぞれの家庭の親の方が難しく、親同士の地域でのコミュニケーションが欠如しているなかで、子どもたちだけ参加というのは難しいかと思う。親同士のコミュニケーションの場をどうやって設けていくかを考えていかななくてはならないと思っている。

【___委員】

昨年の秋に子育てについての講演を企画したが、なかなか若い子育て世代が集まらない。青少年・若者の多様な体験の中には、子育てや、子ども・赤ちゃんとはこういうものだというのも教えていかななくてはならないし、若い人たちに伝えていきたいが、若い人たちが集まる場所がないように思う。

【___委員】

31ページの若者の居場所づくりについて、子どもたちについては開放学級等が挙げられているが、若者については、例えば市民センターなど、具体的な構想はあるか。

【執行機関】

場所の指定はしていない。以前活動の場となっていた青少年センターもなくなってしまい、課題と捉えてはいる。

【会 長】

ただ場所の提供があれば人は集まるものなのか。それとも、相談コーナーがあったり、何か楽しい遊びがある等、何かしらのソフト事業を行わないとならないのか。

【___委員】

学区では、地域の大工さんなどと協働で、教育の一環として、体験学習の機会を設けている。学校教育と生涯学習との振興策があれば良いのではと思う。

青少年相談員が街頭補導で巡回していると、まちなかのちょっとしたスペースで子どもたちが勉強している。そういった、学校帰りに立ち寄れる場所をいかに作るかという問題だと思う。

【___委員】

ライフステージに応じた支援という面では、引きこもり、ニートは何もやっていないというイメージだと思う。

家庭の中に引きこもっているように見えるが、社会人として働いてはいないけれども、親の介護等で活動している方も少なくないと聞いている。

職業的な復帰をするというのがゴールとしても、ニートと見られがちな方が家族へ貢献しているものを評価するようなかたちの支援策があればいいと思う。

【会 長】

他に御意見はありませんか。

それでは青少年・若者育成基本計画（第2次）（素案）についての議論は終わりとなります。

本日お集まりの皆さんは、それぞれの所属団体におかれまして、日頃から青少年の健全育成に御尽力いただいているところでございます。

本協議会の開催趣旨の一つは、「関係機関相互の連絡調整」もありますので、せっかくの機会ですので、皆様の日頃の取組についての御紹介いただき、意見交換を行いたいと思います。

【___委員】

お父さんボランティア「おやじの会」を始めたが、人が集まらない。意識改革を図れば、少しは変わるのではないかと考えている。

【___委員】

横のつながりが大事。事が起これば結束するので、火を絶やさないようにした方がよいと思う。

【___委員】

計画の中にも記載されている中学生交流会は、まさに学校教育で狙っている、何かを発信したり、集まった仲間と協議したり、新しいものを生み出す力を養うもので、大変有意義だと思う。

【___委員】

地域の夏祭り行事に参加させるために子ども会に入ったという話を聞いている。魅力あるものを作り上げていけば、子ども会加入率も上がると思う。

【___委員】

地域の方に応援してもらい活動している。子どもフェスティバルを行っており、団体のPRを図っている。

【会 長】

他に御意見がないようですので終わりたいと思いますが、計画について何か御意見等がある場合には、2月4日からパブリックコメントが始まりますので、どうぞ御意見をお寄せください。